

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22205	病理学 Pathology	久永 直見	専門基礎	2	必修	2 年後期
科目の概要						
栄養士にとって重要な疾病に重点を置いて、それらの疾病がどのように発生して、悪化してゆくのか、どのように栄養を摂れば、疾病の発生を予防したり、悪化を防いだりすることができるかを講義する。						
学修内容			到達目標			
① 栄養士にとって重要な疾病の原因や症状を理解する。 ② どのように栄養を摂れば、疾病の発生予防と悪化の防止に役立つかを理解する。			① 栄養士にとって重要な疾病の原因や症状を説明できる。 ② どのように栄養を摂れば、疾病の発生予防と悪化の防止に役立つかを説明できる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	授業に能動的に参加し、教員の質問に積極的に答える。				
	働きかけ力					
	実行力	毎回実施する小テストのための復習を行う。				
考え抜く力	課題発見力	授業を通して栄養に関する課題を見つけ出す。				
	計画力	小テストのための学習時間を、計画的に確保する。				
	創造力	教員の出すヒントをもとに自分の考えを創り出す。				
チームで働く力	発信力	教員からの質問に、ほかの学生にも理解できるように的確に答える。				
	傾聴力	講義内容を丁寧に聞き取り理解するよう努める。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	授業には遅刻しない、私語を慎む。				
	ストレスコントロール力	小テストによる評価のストレスに、計画的学習でコーピングを行う。				
テキスト及び参考文献						
①教科書 「テキスト健康科学」改訂第2版 佐藤祐造ほか編(南江堂) 2808 円(税込み) ②毎回の講義にて教材資料を配布する。						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連： 生理学、解剖学、解剖生理学実験、生化学、公衆衛生学などが関連する。 資格との関連： 栄養士						
学修上の助言			受講生とのルール			
栄養士という職業の専門性に関わる科目である。専門用語が多く難しいと感じることが多いだろうが、学修の成果は将来必ず役に立つものであり、積極的に知識を積み上げて欲しい。			毎回の授業後、復習し、小テストにて、達成度を確認する。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験	60	①	✓	・授業で学習した内容の理解度を、穴埋め問題と論述式問題とを併用して評価する。 ・筆記試験と小テストの結果を合わせて、次の到達レベルをもって評価の基準とする。 の成因、症状、診断、治療方法に関する質問の90%以上に正しく解答できる。・・・S 同じく80～89%に正しく解答できる。・・・A 同じく70～79%に正しく解答できる。・・・B 同じく60～69%に正しく解答できる。・・・C Cのレベルに達していない。・・・F
		②	✓	
小テスト	30	①	✓	・授業内容の要点の理解・記憶を、毎回の授業の冒頭に小テスト(穴埋め問題10問)を実施して評価する。
		②	✓	
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・将来、栄養士になって社会に貢献するために、積極的に学ぶことができる。 (実行力) 計画的に学習し、知識を蓄積できる。 (課題発見力) 授業を通して疾病の予防における栄養学的課題を発見できる。 (創造力) 授業を通して疾病の予防に関する自分の考えを創り出せる。 (傾聴力) 授業に集中し、内容を理解し、要点を記録できる。 (発信力) 教員からの質問に対し、的確に、他の受講者にも分かるように解答できる。 (規律性) 教室でのマナーを守り、質の高い学びの場に行ける。 (ストレスコントロール力) 毎回の授業冒頭の小テストのストレスに対し、計画的学習によりコーピングできる。
		②	✓	
その他				
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)の基準: 授業で取り上げた疾病の原因、病態、診断、栄養との関わりを説明できる。 A(優)の基準: 授業で取り上げた疾病の原因、病態、栄養との関わりを説明できる。	B(良)の基準: 授業で取り上げた疾病の原因、栄養との関わりを説明できる。 C(可)の基準: 授業で取り上げた疾病の栄養との関わりを説明できる。

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1週 /	日本における疾病罹患状況と 一次・二次・三次予防対策	講義	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
2週 /	栄養と疾病との関わり	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
3週 /	疾病で起きる細胞と組織の 変化 I (炎症、免疫)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
4週 /	疾病で起きる細胞と組織の 変化 II (変性、腫瘍)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
5週 /	ビタミンの欠乏症と過剰症	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
6週 /	ミネラルの欠乏症と過剰症	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
7週 /	糖尿病	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
8週 /	脂質異常症	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
9週 /	高尿酸血症	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
10週 /	先天性代謝異常	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
11週 /	高血圧・心疾患	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
12週 /	消化器疾患(胃十二指腸潰 瘍、過敏性腸症候群、潰瘍性 大腸炎)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
13週 /	肝臓・膵臓・胆嚢の疾患(肝 炎、膵炎、胆石症)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
14週 /	感染症(細菌、真菌、ウイルス)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	小テストで正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性
15週 /	脳血管疾患・認知症(脳出血、 脳梗塞、アルツハイマー病な ど)	講義と小テストによる 評価とその結果の通 知	定期試験の該当部分の 問題に正答率 60%以 上。	復習し、疑問点は調 べる。	90	主体性 課題発 見力 発信力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力